



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802

FAX (0263)51-1290

E-mail: sogokyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp

目次

研修講座追加募集について	p.1
今年度の研修講座の様子（教科教育部）、ちょこっと研修	p.2

今からでも申し込める講座がまだまだあります！



希望研修

■令和7年度 長野県総合教育センター追加募集講座一覧（8月6日現在）

- 令和7年度 長野県総合教育センター追加募集講座一覧（8月6日現在）(pdf) >
- 令和7年度 長野県総合教育センター追加募集講座一覧（幼稚園・認定こども園・保育園等対象講座）(pdf) >

「研修」タブ
「希望研修」バナー
どちらかをクリック

※申込期間は各講座の実施日の10日前までです。Plant申し込み後、教頭先生に報告し、学校承認をしてもらってください。

〈 NITS 動画の紹介 〉

独立行政法人教職員支援機構（NITS：ニッツ）動画教材より、次ページ「ちょこっと校内研修」に関連した動画をピックアップしました。校内での会議や研修の場で、会を円滑に進めるためのヒントが詰まっています。

会議・話合いに活用する
ファシリテーション：実践力向上シリーズ
No13」（約16分）

<https://www.nits.go.jp/materials/practical/013.html>

関連資料pdf

https://www.nits.go.jp/materials/practical/files/013_001.pdf

会議を活性化させる10のステップ確認表

https://www.nits.go.jp/materials/practical/files/013_002.pdf

振り返りシート

https://www.nits.go.jp/materials/practical/files/index_worksheet_001.pdf

高校理科物理・地学実験 ～物理・地学の基礎実験を学ぶ～

講座のねらい

- ・高等学校学習指導要領を理解し、高校理科の物理・地学の基礎的な実験について、実験の手法、指導のポイントの基本を学び、それらを活かした授業の改善の方向を見いだす。

〈 研修講座の内容・様子 〉

講義前に、先生方にはこれまでの授業で大切にしていることや困っていることを振り返っていただきました。すると器材の不足により実験をする機会が少ないこと等の声が聞かれました。それらをふまえ、講義では、理科の見方・考え方を働かせて、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する授業展開、実験の位置付け、ワークシートの役割について扱いました。

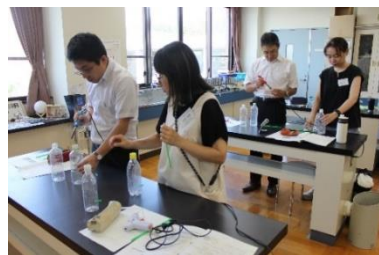
物理実験では、重力加速度の測定、マリOTTの瓶の作成、鏡を使った光の性質の確認などを行いました。実験器具の設置や計算方法の他、実験を導入する効果的なタイミングについて、考え合う場も設けました。実験に摩擦や空気抵抗が影響する場面では、誤差を少なくする工夫や、演示実験で補う手法について考えました。

地学実験では、偏光板を用いた岩石薄片観察法や、宇宙から飛来した流れ星のかけらを探す実習や、化石レプリカ、立体星座の作成をしました。受講者からは、帰校後に大量の砂の中から、流れ星のかけらを見つけ出したという報告もいただきました。地震と液状化現象の実験では、防災教育へとつなげていく事例紹介も行いました。

これらの活動を通して、受講者からは理科の授業における実験の重要性や夏休み明けからの実践に向けたチャレンジの言葉が語られました。受講者の気づきや感想の一部をご紹介します。



重力加速度の測定実験



マリOTTの瓶の作成

- ・受講前は物理や地学では実験をすることが難しいと感じていたが、簡単な実験方法や、ちょっとしたコツに気づくことで、実験をすることのハードルが下がりました。
- ・原理を生徒が理解できた状態で実験をやらなくてはならないと考えていたが、先に実験をおこなうことで生徒の関心を高めることもできるという気づきがあった。
- ・実験の誤差が大きいと、生徒の理解を阻害してしまう場合があるが、誤差の原因を探究していくことで、さらに理解を深めていくこともできるのではないだろうか。
- ・教員は何度も行う実験でも、生徒は一生に一回しかできない。できる限り実験を経験させてあげたい。時間がない、大変だから、を理由に実験をあきらめることはやめようと思った。

ちょこっと校内研修

【自身の授業実践を振り返り、語り合おう】 所要時間 15分

ねらい 自身の授業実践を語り合い、他者から新たな気づきを得るきっかけをつくる

自身の授業実践を「ちょこっと」振り返ってみましょう。そして、そのことを同僚と語り合ってみましょう。気付いていなかった自分の授業のよさに気付いたり、授業を問い直したりするきっかけになるのではないのでしょうか。センターの理科研修講座では、講座開始前に授業実践の振り返りを行っています。その項目をご紹介しますので、参考にしてください。

ちょこっと振り返り

授業で大切にしていること

困っていること

他の先生と
ちょこっと対話

自分の気づき

自分の授業のよさや新たな課題は？

困りごとの解決法は？